

海南市立海南下津高等学校の在り方について

答 申

平成31年3月

海南市立海南下津高等学校在り方審議会

目 次

はじめに	1
1 海南市立海南下津高等学校の概要	2
(1) 沿革	2
(2) 学校概況	2
2 海南市立海南下津高等学校の現状と課題	3
(1) 入学志願者の減少について	3
(2) 専門学科・家庭科について	3
(3) 学校運営に係る経費について	4
3 海南市立海南下津高等学校の今後の方向性について	4
(1) 主な審議内容	4
ア 入学志願者の減少について	4
イ 学科の存続及び改編等について	6
ウ その他の審議について	11
(2) 今後の方向性について	12
おわりに	13

【資料編】

資料1 「諮問書」	14
資料2 「海南市立海南下津高等学校在り方審議会条例」	15
資料3 「海南市立海南下津高等学校在り方審議会委員名簿」	16
資料4 「海南市立海南下津高等学校在り方審議会審議経過」	17
資料5 「海南下津高等学校入学者選抜実施及び卒業状況」	18
資料6 「海南下津高等学校入学者の出身市町別生徒数」	19
資料7 「海南下津高等学校合格者のうち市内からの生徒数とその割合」等	20
資料8 「県内の中学校3年生の生徒数及び 女子生徒数の推移と今後の見込み」等	21
資料9 「平成30年度 和歌山県立高等学校入学者選抜実施状況」	22
資料10 「他府県における「新しいタイプの高等学校」の例」	24

はじめに

海南市立海南下津高等学校の前身である「海南市高等学校」と「下津女子高等学校」は、それぞれ昭和 30 年 5 月と昭和 33 年 3 月に、海南市及び下津町の女子教育の振興を目的に、共に家庭科を専門とする女子高等学校として設置された。

平成 17 年 4 月、海南市と下津町との合併により現在の海南市が誕生し、これを機に、平成 19 年 4 月、両校が統合再編される形で、食物科と家政科から成る家庭科専門の高等学校として、海南市立海南下津高等学校が設置された。

本年度、創立 12 年目を迎えた同校は、開校当初から入学者の充足率が低く、「募集定員に満たない。」という問題を抱えていたが、社会状況の変化や大学進学率の上昇等に伴う生徒の普通科志向の高まり、県内及び市内の生徒数の減少と県立高等学校の募集定員の充実等、同校を取り巻く環境はますます厳しさを増している。

海南市教育委員会及び同校では、入学志願者の増加に向け、学校改革をはじめ、様々な取り組みを行ってきたが、生徒の増加には結びつかず、特にここ数年は、定員割れの拡大、市内在住の生徒が極端に少なくなるなど、その問題が一層顕著となった。

このような状況を踏まえ、海南市教育委員会は、平成 30 年 11 月、学識経験者をはじめ、各方面の方々を委員とする「海南下津高等学校在り方審議会」（以下、「審議会」という。）を設置し、同校の今後の在り方について様々な立場からの意見と提言を求めることとし、13 名が委員として委嘱された。

平成30年11月の「第1回審議会」以来、6回にわたって審議会を開催してきたが、その間、海南市教育委員会及び同校に様々な資料の提供を求め、また、審議会委員が学校に赴いて生徒や施設の状況について現地調査を行うなど、でき得る限り同校についての正確な現状認識と課題把握に努め、様々な方向から慎重に検討を行うとともに真摯な議論を展開してきた。この度、これまでの議論や検討結果を審議会として答申書にまとめるものである。

1 海南市立海南下津高等学校の概要

(1) 沿 革

海南下津高等学校の前身である海南市立海南市高等学校は、昭和 30 年に昼間定時制の家庭科女子高等学校として設置され、昭和 41 年に全日制となった後、昭和 48 年に家政科に改編された。一方、下津町立下津女子高等学校は、昭和 33 年に「下津高等学校」という名称で、昼間定時制の家庭科女子高等学校として設置され、昭和 38 年に家政科に改編された後、昭和 41 年に全日制となり「下津女子高等学校」と改称、昭和 46 年に食物科が設置され、平成 3 年には家政科を普通科に改編、さらに、平成 14 年には普通科をライフデザイン科に改編した。

両校は、平成 17 年度の旧海南市と旧下津町の合併に伴い入学生の募集を停止し、平成 19 年、それぞれの歴史と伝統を受け継ぎ統合再編する形で、現在の海南下津高等学校が「食物科と家政科から成る家庭科専門の女子高等学校」として設置され、海南市高等学校と下津女子高等学校は、平成 21 年 3 月に最後の卒業生を送り出し、廃止された。

(2) 学校概況

海南下津高等学校は、「地域に学び地域に貢献する家庭科専門高等学校」として、地域の方々との交流を活かした「体験・参加型の学習や実習」を数多く取り入れ、「学び直し」も含めた確実な基礎学力の定着や、教育相談活動などきめ細かな生徒指導の充実に力を入れるほか、地域への貢献活動等「特色ある学校づくり」に取り組んできた。

募集定員は、食物科が 1 学級 40 名、家政科が 2 学級 80 名、合計 120 名であるが、後に述べるように、開校以来、入学者が募集定員を下回る状況が続いており、平成 30 年度の募集定員に対する入学者は 36 名（合格者 37 名のうち入学辞退 1 名）で、充足率は 30%である。 【参考：資料 5（P18）】

現在、生徒は、7 市 3 町から通学しているが、出身市町別では、和歌山市が最も多く、平成 30 年度では入学者 36 名の 75%を占める。海南市内からの入学者は、平成 28 年度から 3 年連続で各 3 名と大きく減少した。これは、平成 30 年度入学者 36 名の 8%、募集定員 120 名の 3%にあたる。 【参考：資料 6（P19）】

平成 29 年度の卒業生（64 名）の進路状況は、進学者 19 名、就職者 30 名、そ

の他 15 名であり、うち「食物・生活産業関連」への進学が 6 名、就職が 16 名である。

2 海南市立海南下津高等学校の現状と課題

(1) 入学志願者の減少について

開校以来続いている「定員割れ（入学志願者が募集定員を下回る状況）」がここ数年著しくなり、平成 30 年度入学者選抜では、募集定員 120 名に対して、入学志願者が 37 名（食物科 30 名、家政科 7 名）という状況である。

その状況は、家政科においてより顕著であるが、これまで概ね募集定員を満たしてきた食物科においても「定員割れ」が生じている。

また、海南市内の中学校からの入学者が、平成 28 年度以降連続して 3 名という極端に少ない状況となっており、この人数は、平成 30 年度における海南下津高等学校合格者（37 名）の 8.1%、募集定員の 2.5%であり、海南市内中学 3 年生（412 名）の 0.7%（3 年生女子（208 名）の 1.4%）に当たる。

【参考：資料 7（P20）】

入学者選抜実施年度	定 員(人)	出願者数(人)	合格者数(人)	市内在住生徒数 (人)
平成 26 年度	120(40/80)	76(57/19)	68(40/28)	9(6/3)
平成 27 年度	120(40/80)	87(60/27)	77(40/37)	11(8/3)
平成 28 年度	120(40/80)	54(40/14)	46(36/10)	3(2/1)
平成 29 年度	120(40/80)	41(29/12)	38(27/11)	3(3/0)
平成 30 年度	120(40/80)	37(30/ 7)	37(30/ 7)	3(3/0)

（注）上表数値のカッコ内は、左側が食物科の人数、右側が家政科の人数を示す（食物科／家政科）。

(2) 専門学科・家庭科について

海南下津高等学校は、現在、県内で唯一の「専門学科としての家庭科（食物科・家政科）」を有する高等学校であり、平成 30 年度の同校への出願者数は 37 名（食物科 30 名、家政科 7 名）であるが、同年度の県下全体での公立高等学校（全日制）の出願者数は延べ 6,628 名であることから、県下全体の公立高等学校（全日制）に占める専門学科・家庭科への出願者数の割合は 0.6%（食物科 0.5%、家

政科 0.1%) となる。

また、海南下津高等学校の「食物科」は、厚生労働省の調理師養成施設であり、卒業時に調理師免許を取得させることが大きな特色となっているが、調理師免許については、それがなくても調理業務に従事することができるという性格を持つことから、調理師免許取得者が就職時に優遇されるという例は少なく、「調理師手当」等の支給が明記されている事業所は一部企業に限られるなどの状況がある。また、飲食店開業に必要な「食品衛生責任者」の資格は、食品衛生責任者養成講習会を受講することによって取得が可能な状況となっている。

なお、調理師養成課程の必修科目（講義 5 科目 20 時間・実習 12 時間／週）を担当することができる教員の資格要件が「調理師養成施設ガイドライン（厚生労働省）」によって厳しく規定されているため、教員の確保は困難な状況に置かれている。

（３）学校運営に係る経費について

海南下津高等学校の運営に係る経費は、平成 29 年度決算で約 2 億 2,600 万円の支出となっており、この「支出額」から「授業料及び交付税試算額（交付税算定の基礎となる高等学校運営のための標準経費から試算した額）等の収入額」を除いた金額は、約 1 億円である。これに対し、海南市内の中学校からの入学者が、平成 28 年度以降連続して 3 名という状況である。

3 海南市立海南下津高等学校の今後の方向性について

（１）主な審議内容

ア 入学志願者の減少について

海南下津高等学校では、募集定員数の入学者を確保するため、様々な学校改革の取り組みを進めながら、その成果や生徒の様子を広く周知することが重要と考え、ふるさと海南まつりや下津町文化祭など各種地域行事への参加をはじめ、中学校への「マンスリータイムズ（学校新聞）」の配布や、「学校紹介DVD」、「リーフレット」・「ポスター」の作成、各種資料を持参しての中学校訪問、地方紙やテレビ・ラジオ等への資料提供など、情報発信並びに広報活動に努めてきた。

しかし、入学者の充足率は、1 期生の「78%」をピークに減少傾向が続き、こ

こ3年間は「40%」を割り、平成30年度は「30%」となっている。

入学志願者の減少の背景としては、県立高等学校入学者選抜に係る全県一区制の導入や、大学・短期大学や専門学校への進学率の上昇に伴い、普通科志向が強くなっていること等が考えられる。特に、ここ3年間の志願者減少の背景としては、県立高等学校においても入学志願者が募集定員に満たない学校・学科があることも影響していると考えられる。そのことはまた、海南下津高等学校への追募集志願者が大きく減少したことに現れている。 【参考：資料5（P18）】

第2回審議会で「現地視察」に訪れた際には、どの授業も少人数で、丁寧な指導が行われている様子が見受けられ、なかには生徒数が5名に満たない「個別指導」に近い授業があった。「教員（管理職を除く常勤教員）一人あたりの生徒数で表す教育環境の指標」である「S T比」で見ると、海南下津高等学校の数値は「4.3」（生徒数104人／教員数24人）であり、同じ市立の和歌山市立和歌山高等学校の「S T比」は「11.9」（生徒数777人／教員数65人）である。つまり、海南下津高等学校の「S T比」が約3分の1（ $4.3 \div 11.9$ ）であるということは、少人数授業を維持するためには、生徒1人あたりに約3倍（ $11.9 \div 4.3$ ）の教員経費を必要とすることを意味している。

さらに、生徒数が少ない状況では、学校行事や生徒活動、部活動等の効果的な実施、生徒同士の学び合いや相互研鑽等が十分に行える集団の形成が阻害されるなど、学校全体の活力を維持することは困難であると言わざるを得ない。

このことについて、和歌山県教育委員会は、高等学校における望ましい学校規模を「1学年4～8学級（160人～320人）」としており、平成17年「県立高等学校再編整備計画」のなかで、「1学年3学級以下となっている高等学校で、今後入学者数が適正規模の下限である1学年4学級募集定員の3分の2を維持することが見込めない高等学校は、統合を進める。」としている。「1学年4学級募集定員の3分の2」とは「106人」であり、平成30年度の海南下津高等学校の入学者数が「1学年36名（全校で104名）」であることから、県が示す「1学年106名」に遙かに及ばない現状である。このことが、海南下津高等学校の「存続」に係る大きな課題と言わざるを得ない。さらに、和歌山県の中学3年生の生徒数は、次年度に約490名、再来年はさらに約250名が減少する見込みであり、将来にわたって減少の一途を辿ることが予想されるため、現状のままでは入学志願

者の増加を望むことは難しい。

【参考：資料 8（P21）】

イ 学科の存続及び改編等について

海南下津高等学校に「食物科」と「家政科」が開設された経緯は、海南市高等学校と下津女子高等学校との統合再編時に設置された「海南市立高等学校将来構想懇話会」での「両校の特色と伝統を活かす。」との結論による。

一方、和歌山県教育委員会は、先述した平成 17 年「県立高等学校再編整備計画」のなかで、「家庭に関する学科は、これまで、専門的な知識や技術を身につけるとともに、人間教育の場としての機能を果たしてきました。近年、日々変化する生活関連産業への対応が難しい状況も見られることから、家庭科の専門科目は、選択科目、学校設定科目として開設し、専門学科としての家庭科を発展的に解消していきます。」とし、現在、県立高等学校では、家庭科の募集は行われていない。

審議会では、「食物科」と「家政科」が多くの上志願者を集めることができていない現状のままで、海南下津高等学校の運営を続けることは困難であり、学校の「存続」を考えるのであれば、思い切った改革が必要であるとの認識のもと、「海南市として、海南市民のためにどのような高等学校が必要であるのか。」という根本的な観点から、「学科の改編」等も含めた同校「存続」のための方策とその可能性について、多方面から慎重に審議を行った。

①「食物科単独（1 学年 1 学級）での運営」について

審議会では、「食物科」が一定の上志願者を集めているという現状から、「食物科単独（1 学年 1 学級）での学校運営」の可能性について検討した。

「1 学年 1 学級」では、生徒の多様な進路希望に対応できる基本的な教科・科目を開設するための教職員の配置が難しくなり、教育課程の編成が著しく困難になるほか、学校行事や生徒活動、部活動等の効果的な実施、生徒同士の学び合いや相互研鑽等が十分に行える集団の形成が阻害され、学校全体の活力を維持することが困難になるなど、県が示す「高等学校の適正規模」から大きく離れることになる。

現在、国内には、「1 学年 1 学級」で運営されている高等学校がいくつか存在

しているが、その多くは山間部や離島等の過疎地域に限定され、総じて、これらの高等学校は、地域振興や人口減少対策などの「地域課題の解決」等を目的として設置されたものである。

例えば、食物科単独（1 学年 1 学級 40 名）で運営されている例として、北海道三笠高等学校があるが、元々、同校は道立の高等学校であり、その統廃合の対象となっていたところを三笠市が人口減少に歯止めをかけるという「地域的な課題」を解決するために、道から移管を受け、市が設置したという例外的な高等学校であり、全道から集まった生徒の 9 割は、学校が整備した寄宿舎で居住している。

また、平成 30 年 7 月には約 5 億 3,600 万円をかけ研修施設（高校生レストラン）を建設している。

このほか、「食物調理科」の教育活動で有名な高等学校の例として、三重県立相可高等学校があるが、同校は、普通科等 4 学科（1 学年 6 学級）からなる全校 700 名という大規模校であり、その中に 1 学年 40 名の食物調理科（調理師コース 20 名、製菓コース 20 名）が設けられている。

このような学校をめざすには、最新の施設と設備の導入が必要であり、費用と指導者の確保等が大きな課題となる。

以上のことから、海南下津高等学校を「食物科」単独で運営することは困難である。

②「男女共学」について

海南下津高等学校を女子高等学校として設置した経緯については、先述の「海南市立高等学校将来構想懇話会」における協議の結果であり、海南市高等学校と下津女子高等学校の歴史と伝統を引き継ぐ形で決定され、現在に至っている。

審議会においても、今後の海南下津高等学校の在り方の一つとして「男女共学」について検討したが、今後、少子化に伴い児童生徒数の減少がいつそう進むこと、また、近隣の県立高等学校においても入学志願者が募集定員に満たない学校・学科があること等から、男子生徒が進学先として、海南下津高等学校をどれだけ選択するかは疑問であり、「男女共学」の導入が入学志願者の増加に繋がるとは考え難い。

③「全国募集枠」の設定について

現在、和歌山県教育委員会は、「志願者の特例」として、県立高等学校（全日制）4分校と串本古座高等学校において、募集定員の10～30%（4～12名／計36名）を「全国募集枠」に設定している。平成30年度入学者選抜での合格者数は、2校で「0名」、残り3校が「2名・4名・9名」である。

審議会において、「全国募集枠」の設定についての検討を行ったが、全国募集を行う前に、全国募集に値する「学校の魅力づくり」が先決であること、寄宿舎の整備と舎監等教職員の増員が必要となること、市内中学校からの入学者の増加に力を入れるべきこと等から、「全国募集枠」の設定は見送るべきである。

④「学科改編」について

【普通科】

下津女子高等学校において、入学志願者を増やすために、平成3年度に「家政科」を「普通科」に改編したが、入学志願者は募集定員の約3割に留まり、入学者の増加には結びつかなかったため、平成14年、「普通科」をさらに「ライフデザイン科」に改編したという経緯がある。審議会においても、今後、少子化に伴い児童生徒数の減少がいつそう進むこと、また、近隣の県立高等学校「普通科」においても入学志願者が募集定員に満たない状況があること等から、海南下津高等学校を「普通科」に改編することが市内中学生の志願者の増加に結びつくかは疑問である。

【総合学科】

「総合学科」は、生徒が自分の将来の進路を考え、生徒が共通教科・科目と専門教科・科目にわたる幅広い科目の中から必要な科目を選択し学ぶ学科であり、和歌山県教育委員会は全県的な地域バランスに考慮して、現在、県内に、県立和歌山高等学校、県立有田中央高等学校、県立熊野高等学校、県立新翔高等学校の4校を配置している。これら4校の状況をみると、「総合学科」を設置・運営するためには、1学年4学級以上が望ましい。また、25単位以上の教科・科目を開設し、これに応じた施設・設備を整備する必要がある、かつ、多様な科目を指導できる多くの教員を確保しなければならないことなどが条件である。

したがって、海南市が新たに海南下津高等学校に「総合学科」を設置することは極めて困難である。

【専門学科】

《介護科》

先述の下津女子高等学校「ライフデザイン科」では、「ホームヘルパー 2・3 級」の資格を取得できるコースを設置し、平成 16 年から平成 20 年にかけて、「3 級」を 47 名、「2 級」を 18 名に取得させたという実績があるが、このことについてもやはり、志願者の増加には結びつかず、統合後の海南下津高等学校では介護資格を取得するためのコース設置は行わなかったという経緯がある。また、同様の学科やコースを設置するとなると、新たに介護実習教室等の施設や設備を整備する必要があり、費用と指導者の確保等が大きな課題となる。

また、和歌山県は、平成 28 年度から、県内の高校生を対象とした「介護職員養成研修」を実施しており、平成 28 年と 29 年の 2 年間で 20 数校から 218 名が「初任者研修」資格を取得するなど、高校生の希望に応じて受講、取得できる仕組みが整備されている。

以上のことから、海南下津高等学校に介護に関する新たな学科・コースを設置することは、大きな特色とはなり得ず、市内中学生の志願者の増加に結びつくかは疑問である。

《情報関連学科》

現在、I C T の時代と言われ、情報教育の充実が求められる中、審議会において「情報関連学科」への改編についての検討を行ったが、当該学科を設置するには最新の施設・設備の新たな導入が必要であり経費を要すること、情報関連に精通した教員の確保が必要であること、また、既にいくつかの県立高等学校で同様の学科が設置されており、大きなインパクトにならないこと等から、海南下津高等学校に新たに「情報関連学科」を設置しても、市内中学生の志願者の増加に結びつくかは疑問である。

《その他の専門学科》

すでに検討した 4 学科のほかに、「理数に関する学科」や「国際交流に関する学科」、「保健体育に関する学科」など生徒の学習ニーズを勘案した「普通科系専門学科」や、「商業に関する学科」、「工業に関する学科」など産業界のニーズに

応える「職業系専門学科」などがあり、その他の「専門学科」への改編についても検討した。

これらの「専門学科」については、和歌山県教育委員会が平成 28 年の「県立高等学校再編整備基本方針」のなかで、「普通科系専門学科にあっては、当該学科への入学状況や教育の現状等を勘案しながら、学科の改編も視野に入れ、生徒の学習ニーズに応じていきます。」、また、「職業系専門学科にあっては、少子化に伴う規模の縮小はあっても、普通科と当該学科とのバランスを勘案しながら、適正な配置に努めます。」という基本方針を明確にしている。

したがって、海南市が独自に海南下津高等学校に「その他の専門学科」を設置することは考え難い。

⑤「学び直し等に特化した新たな高等学校」について

これまで「学び直し」を含めた確実な基礎学力の定着や、きめ細かい生徒指導等に力を入れてきた海南下津高等学校を、大阪府の「エンパワーメントスクール」や東京都の「エンカレッジスクール」のような、「義務教育段階での学習のつまずきや、不登校等多様な課題を抱える生徒を受け入れる、新しいタイプの高等学校」として存続させることを検討した。その結果、明らかになったことは、これらの新しいタイプの高等学校は、東京都や大阪府等、都府県の教育施策として設置・運営されていることである。

また、和歌山県では、中学校で特別支援学級に在籍していた生徒の約 6 割が高等学校に進学している現状があり、和歌山県教育委員会は上記の基本方針で、「何らかの特別な支援を必要とする生徒が、どの高等学校にも在籍している現状に鑑み、高等学校教育の更なる充実を図ります。」、また、「社会に適應できる力を育む教育を特色とする学級等を全日制課程に設置することも検討しながら、特別支援教育の更なる普及・充実を図っていきます。」としている。

この基本方針に基づき、県立高等学校では、通常の学級に在籍しながら個別的な特別支援教育を受けることができる「通級教室」の全日制課程への設置をはじめ、全日制課程に在籍しながら通信制課程で必要な単位を取得できる「不登校生徒のための全通併修」制度の整備、さらに「教育相談体制」の一層の充実等により、学力面や不登校等個別の課題や困難を抱える多様な生徒の受け入れと指導

に力を入れている。

以上のことから、「学び直し等に特化した新しい高等学校」を構築することは、和歌山県教育委員会の役割であり、海南市の果たすべき役割とは考えられない。

【参考：資料 10（P24）】

ウ その他の審議について

①「女子教育」について

和歌山県においては、女子の高校進学率の上昇により、昭和 20 年代後半から「家庭科専門学科」の設置が始まり、昭和 40 年代初頭まで、延べ 16 校に 16 学科が作られた。設置学科の多くが「家庭科専門学科」であったのは、当時は、女子の高校進学が直ちに大学等の高等教育機関への進学を想定したものではなかったためである。「海南市高等学校」と「下津女子高等学校」もその流れの中で、女子教育に特に熱心であった当地域に、市内及び町内女子生徒のための進学先の確保、「女子教育」の推進という目的から、それぞれ市立高等学校、町立高等学校として設置されたものである。

その後、進学における普通科志向の高まり、時代のニーズに対応した新たな学科の設置、少子化に伴う児童生徒数の減少、県立高等学校における募集定員の拡充等社会状況の変化のなかで、「家庭科専門学科」は徐々にその姿を消し、現在残っている学校は海南下津高等学校のみとなった。

これらの状況に鑑みたとき、審議会としては、これまで海南下津高等学校が受け継ぎ担ってきた「女子教育」という歴史的使命は果たされたと判断することが妥当であると考ええる。

②「地域が求める高等学校」について

海南下津高等学校は、鉄道や国道が通り、商店街が形成されているという環境にあり、先述の「地域振興や人口減少に歯止めをかける等の課題解決」を目的として「山間部や離島等に設置された高等学校」とは異なる。

また、海南下津高等学校への入学志願者確保のため、地域や自治会が担える役割等について協議したが、地域や自治会として、これまでどおり学校行事等の運営に協力したり、高等学校の各種活動等の広報に協力したりすることは可能で

あるものの、入学志願者の増加に結びつくような取り組みを全地域で盛り上げ、支援することには限界があるという状況である。

（２）今後の方向性について

審議会は、「海南市として、海南市民のためにどのような高等学校が必要であるのか。」という根本的な観点から、「学科の改編」等も含めた海南下津高等学校「存続」のための方策とその可能性について、多方面から慎重に検討を重ねてきた。委員それぞれが、「これまでの歴史や伝統を継承できないか。」という思いや、「海南市になくてはならない高等学校として再出発させることができないか。」、「そのためにはどのような方策が考えられるか。」などを念頭においての真摯な議論を重ねてきた。

しかし、海南下津高等学校を海南市が設置する高等学校として、今後も運営していく必要性和新たな方向性を見いだすことはできなかった。

したがって、大変残念なことではあるが、海南下津高等学校を廃止するについてはやむを得ないものであるとの結論に至った。

なお、本審議会の答申を受けて、同校を廃止するについては、海南市教育委員会におかれては、第一に、生徒と保護者の不安感の解消に努めること、また、教職員の身分保障及び人事異動等が円滑に行われること、跡地利用について地域の活性化に資するよう市当局に働きかけることなどについても、留意されたい。

おわりに

海南市立海南下津高等学校は、その前身である海南市高等学校と下津女子高等学校の歴史と伝統を受け継ぎ、和歌山県で唯一の公立女子高等学校として、また、家庭科の専門の高等学校として、これまで特色ある教育活動を展開し、現在、多くの卒業生が社会の各方面で活躍している。

審議会として学校視察に訪れた際、我々委員の目に飛び込んできたのは、綺麗に磨かれた校内と、和気藹々と一生懸命勉強に打ち込む生徒たちの姿であった。

委員一同、「なんとかこの高校を存続できないものか」という思いを秘めて議論を進めてきたのが実情であるが、結果として厳しい結論を出すに至った。

この答申書が示すよう、海南下津高等学校は、前身である海南市高等学校と下津女子高等学校から受け継ぐ「女子教育への期待」をしっかりと担い、立派にその使命を果たされてきた。海南下津高等学校が廃止されることになっても、海南下津高等学校が教育界において遺された輝かしい功績は不滅であり、また、海南下津高等学校に携わった全ての人の「心の母校」として、長く記憶に刻まれることを心から願うものである。

同時に、これまで寸暇を惜しまず教育に携わって来られた教職員の皆様をはじめ、学業や諸活動に努力を重ねてきた卒業生、在校生の皆さん、そして、その成長を温かく見守りご支援いただいた保護者や地域の皆様方、関係各位に敬意を表したい。

最後になったが、委員各位の熱心な議論により、本答申をまとめることができたことに深く感謝申し上げたい。

平成 31 年 3 月

海南市立海南下津高等学校在り方審議会

会長 永 井 邦 彦

資 料

諮 問 書

海教総第 304 号

平成30年11月21日

海南市立海南下津高等学校在り方審議会

会長 永井邦彦 様

海南市教育委員会

教育長 西原 孝

海南市教育委員会
教育長 西原 孝

海南市立海南下津高等学校の今後の在り方について（諮問）

海南市立海南下津高等学校は、平成19年4月に海南市立海南市高等学校と海南市立下津女子高等学校が統合し開校した高等学校であり、本年度開校以来12年目を迎えております。

これまで、同校は食物科と家政科の2科を設置し運営してまいりましたが、社会状況の変化や大学の進学率の向上等に伴う高等学校への進学者の普通科志向の高まり、県内・市内の生徒数の減少、県立高等学校の定員状況の充実等々により、開校以来、定員割れが続いており、加えて、市内在住の在籍生徒が大変少ない状況であります。

このような中、同校の置かれた状況を展望するとき、今後の在り方についての方向性を定めていく必要があると考えております。

こうしたことから、委員の皆様におかれましては、同校の今後の在り方について、豊富な経験と高い識見に基づき幅広くご審議をいただきたく、貴審議会に諮問いたします。

海南市立海南下津高等学校在り方審議会条例

(設置)

第1条 海南市立海南下津高等学校の今後の在り方を検討するため、海南市立海南下津高等学校在り方審議会（以下「審議会」という。）を置く。

(所掌事務)

第2条 審議会は、海南市教育委員会（以下「教育委員会」という。）の諮問に応じ、海南市立海南下津高等学校の今後の在り方に関する事項について調査審議する。

(組織及び委員)

第3条 審議会は、委員13人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから、教育委員会が委嘱する。

- (1) 学識経験を有する者
- (2) 各種団体の代表者
- (3) 学校教育の関係者
- (4) 公募による者

3 委員の任期は、当該諮問に係る調査審議が終了するまでとする。

(会長及び副会長)

第4条 審議会に、会長及び副会長各1人を置き、それぞれ委員の互選により定める。

2 会長は、会務を総理し、審議会を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 会長は、審議会の会議を招集し、その議長となる。

2 審議会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。

3 審議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(意見の聴取等)

第6条 審議会は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させて意見を聴き、又は資料の提出を求めることができる。

(庶務)

第7条 審議会の庶務は、教育委員会総務課において処理する。

(委任)

第8条 この条例に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、会長が審議会に諮って定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、公布の日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行後最初に開催される審議会の会議は、第5条第1項の規定にかかわらず、教育委員会が招集する。

(この条例の失効)

3 この条例は、平成31年3月31日限り、その効力を失う。

海南市立海南下津高等学校在り方審議会委員名簿

	役 職	所 属 ・ 役 職	氏 名
1	会 長	和歌山大学 副学長	永井 邦彦
2	副会長	海南下津高等学校PTA会長	尾崎 祐平
3	委 員	市自治会連絡協議会会長	竹内 邦夫
4	委 員	市自治会連絡協議会監事	岡室 好典
5	委 員	海南海草調理師会監事	峯野 晴夫
6	委 員	市社会教育委員	多田 玻留美
7	委 員	和歌山県立那賀高等学校 校長	歌 保晴
8	委 員	市校長会会長	馬場 一博
9	委 員	下津第二中学校PTA会長	八幡 一宏
10	委 員	前海南下津高等学校PTA副会長	佐々木 敬子
11	委 員	海南下津高等学校学校評議員	上地 俊也
12	委 員	公募委員	森下 友美子
13	委 員	公募委員	宮尾 文子

(順不同・敬称略)

海南市立海南下津高等学校在り方審議会審議経過

開催日	開催時間	会 議 内 容
平成 30 年 11 月 21 日 (水)	13 時 30 分～ 16 時 00 分	諮問 海南市立海南下津高等学校の現状と課題について
平成 30 年 12 月 18 日 (火)	9 時 00 分～ 12 時 05 分	海南市立海南下津高等学校の視察及び協議について
平成 31 年 1 月 16 日 (水)	9 時 00 分～ 11 時 50 分	県立高等学校再編整備計画 海南市立高校将来構想懇話会での協議の経緯 海南市立海南下津高等学校の今後の在り方について
平成 31 年 2 月 7 日 (木)	9 時 00 分～ 12 時 00 分	海南市立海南下津高等学校の今後の在り方について
平成 31 年 2 月 20 日 (水)	9 時 00 分～ 11 時 55 分	海南市立海南下津高等学校の今後の在り方について 答申（案）について
平成 31 年 3 月 19 日 (火)	14 時 00 分～ 16 時 05 分	答申

海南下津高等学校入学者選抜実施及び卒業状況（H30. 4. 1 現在）

資料5

(人)

年 度		学科名	学級数	定 員	前期選抜(人)			後期選抜(人)			追募集(人)			合計(人)			充足率 (%)	卒業者数 (人)	卒業率 (%)
					出願	受検	合格	出願	受検	合格	出願	受検	合格	出願	受検	合格			
平成19年度 入学生	第1期生	食物科	1	40	42	42	40							42	42	40	100	20	50
		家政科	2	80	22	21	21	25	25	25	9	9	7	56	55	53	66	22	42
		合 計	3	120	64	63	61	25	25	25	9	9	7	98	97	93	78	42	45
平成20年度 入学生	第2期生	食物科	1	40	39	38	28	15	15	9	9	9	3	63	62	40	100	28	70
		家政科	2	80	26	26	22	13	13	11	14	12	15	53	51	48	60	34	71
		合 計	3	120	65	64	50	28	28	20	23	21	18	116	113	88	73	62	70
年 度		学科名	学級数	定 員	一般選抜(人)						追募集(人)			合計(人)			充足率 (%)	卒業者数 (人)	卒業率 (%)
					出願	受検	合格				出願	受検	合格	出願	受検	合格			
平成21年度 入学生	第3期生	食物科	1	40	28	28	28				15	15	12	43	43	40	100	29	73
		家政科	2	80	24	24	21				14	14	14	38	38	35	44	20	57
		合 計	3	120	52	52	49				29	29	26	81	81	75	63	49	65
平成22年度 入学生	第4期生	食物科	1	40	44	44	37				12	12	3	56	56	40	100	31	78
		家政科	2	80	30	30	25				17	16	24	47	46	49	61	37	76
		合 計	3	120	74	74	62				29	28	27	103	102	89	74	68	76
平成23年度 入学生	第5期生	食物科	1	40	43	43	38				2	2	2	45	45	40	100	32	80
		家政科	2	80	30	30	27				15	15	14	45	45	41	51	25	61
		合 計	3	120	73	73	65				17	17	16	90	90	81	68	57	70
平成24年度 入学生	第6期生	食物科	1	40	30	30	30				10	10	9	40	40	39	98	28	72
		家政科	2	80	21	20	18				16	16	16	37	36	34	43	19	56
		合 計	3	120	51	50	48				26	26	25	77	76	73	61	47	64
平成25年度 入学生	第7期生	食物科	1	40	29	29	28				7	7	6	36	36	34	85	19	56
		家政科	2	80	18	18	18				8	8	8	26	26	26	33	17	65
		合 計	3	120	47	47	46				15	15	14	62	62	60	50	36	60
平成26年度 入学生	第8期生	食物科	1	40	32	32	30				25	24	10	57	56	40	100	33	83
		家政科	2	80	11	11	8				8	8	20	19	19	28	35	24	86
		合 計	3	120	43	43	38				33	32	30	76	75	68	57	57	84
平成27年度 入学生	第9期生	食物科	1	40	36	36	32				24	23	8	60	59	40	100	33	83
		家政科	2	80	11	10	8				16	16	29	27	26	37	46	28	76
		合 計	3	120	47	46	40				40	39	37	87	85	77	64	61	79
平成28年度 入学生	第10期生	食物科	1	40	34	34	30				6	6	6	40	40	36	90		
		家政科	2	80	11	10	8				3	3	2	14	13	10	13		
		合 計	3	120	45	44	38				9	9	8	54	53	46	38		
平成29年度 入学生	第11期生	食物科	1	40	26	25	24				3	3	3	29	28	27	68		
		家政科	2	80	10	10	9				2	2	2	12	12	11	14		
		合 計	3	120	36	35	33				5	5	5	41	40	38	32		
平成30年度 入学生	第12期生	食物科	1	40	25	25	25				5	5	5	30	30	30	75		
		家政科	2	80	4	4	4				3	3	3	7	7	7	9		
		合 計	3	120	29	29	29				8	8	8	37	37	37	31		

海南下津高等学校入学者の出身市町別生徒数

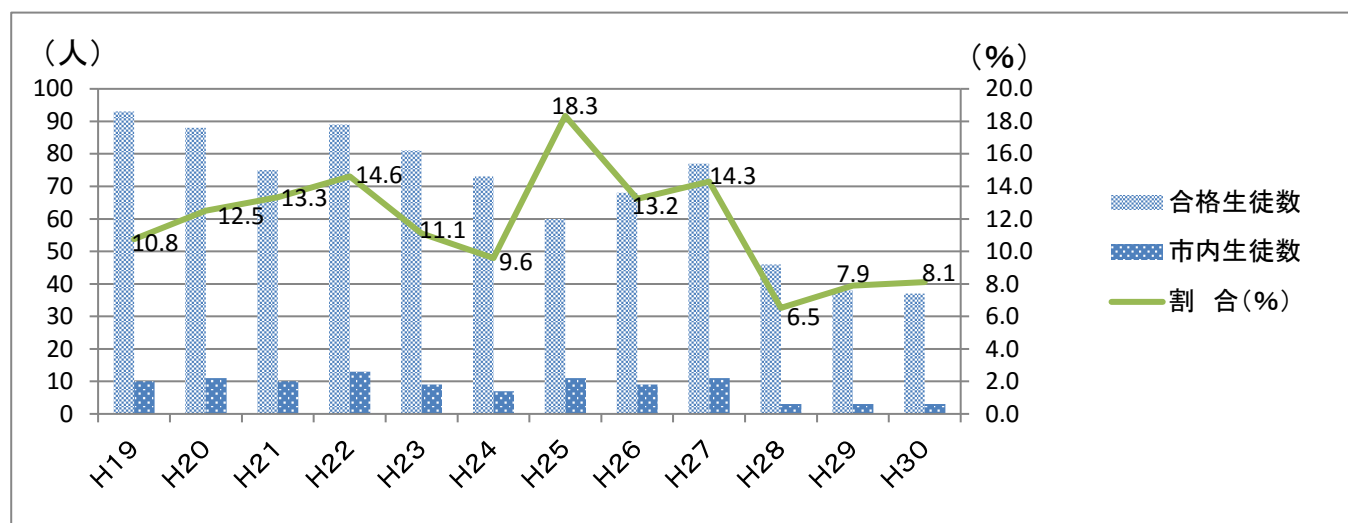
(人)

		平成 19年度	平成 20年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	合 計
	市町名													
1	和歌山市	59	47	32	37	45	54	41	45	51	28	29	27	495
2	海南市	10	11	10	13	9	7	11	9	11	3	3	3	100
3	紀美野町	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
4	岩出市	9	9	8	4	6	3	1	5	7	7	1	4	64
5	紀の川市	5	10	8	14	9	2	1	4	2	2	2	1	60
6	有田市	3	3	3	7	5	0	1	2	4	3	0	1	32
7	湯浅町	3	1	3	2	0	0	2	1	0	0	1	0	13
8	広川町	2	0	1	3	2	2	0	0	2	0	0	0	12
9	有田川町	0	1	3	1	2	1	2	0	0	1	1	0	12
10	御坊市	0	2	2	1	3	2	1	1	0	1	0	0	13
11	美浜町	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3
12	日高町	0	0	2	1	0	0	0	1	0	0	0	0	4
13	由良町	0	0	1	3	0	0	0	0	0	1	0	0	5
14	日高川町	2	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	5
15	印南町	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
16	すさみ町	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
17	田辺市	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
18	橋本市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
合 計		93	88	75	89	81	73	60	68	77	46	38	36	824

海南下津高等学校合格者のうち市内からの生徒数とその割合

(人)

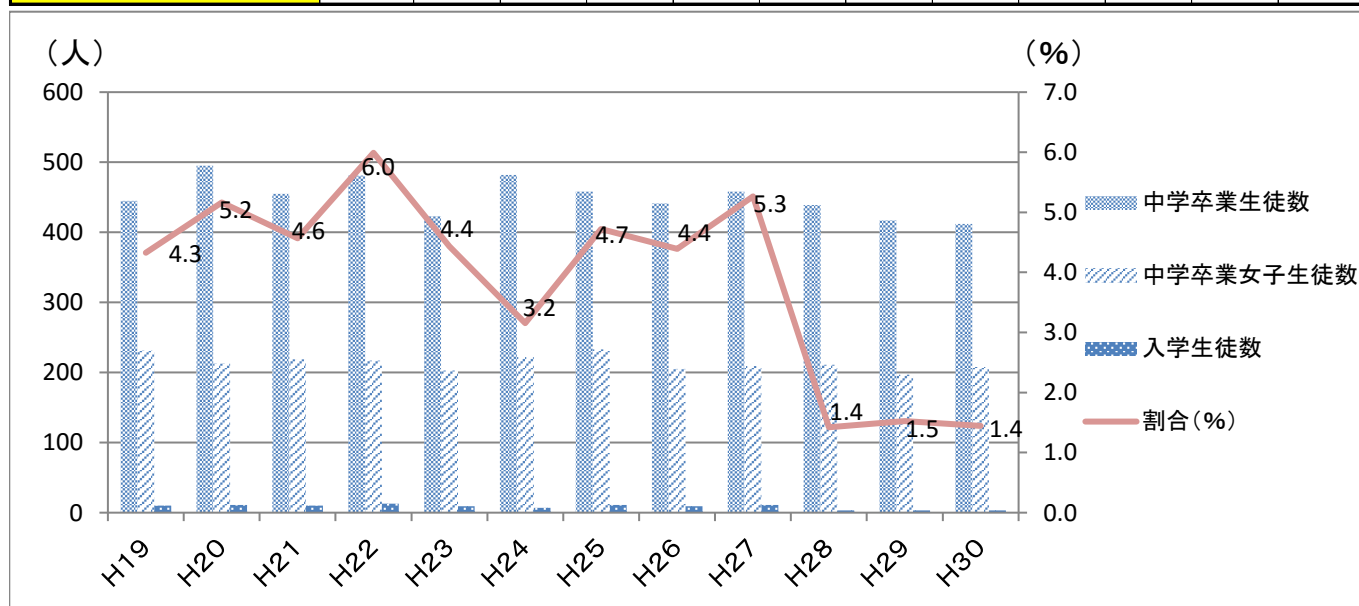
年 度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
合格生徒数	93	88	75	89	81	73	60	68	77	46	38	37
市内生徒数	10	11	10	13	9	7	11	9	11	3	3	3
割 合(%)	10.8	12.5	13.3	14.6	11.1	9.6	18.3	13.2	14.3	6.5	7.9	8.1



海南市内の中学3年生生徒及び女子生徒の内、海南下津高等学校に入学した者の人数と割合

(人)

卒業及び入学年	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
中学卒業生徒数	445	495	455	481	423	482	458	441	458	439	417	412
中学卒業女子生徒数	231	213	219	217	203	222	233	205	209	211	197	208
入学生徒数	10	11	10	13	9	7	11	9	11	3	3	3
割合(%)	4.3	5.2	4.6	6.0	4.4	3.2	4.7	4.4	5.3	1.4	1.5	1.4



【県内の中学校3年生の生徒数及び女子生徒数の推移と今後の見込み】

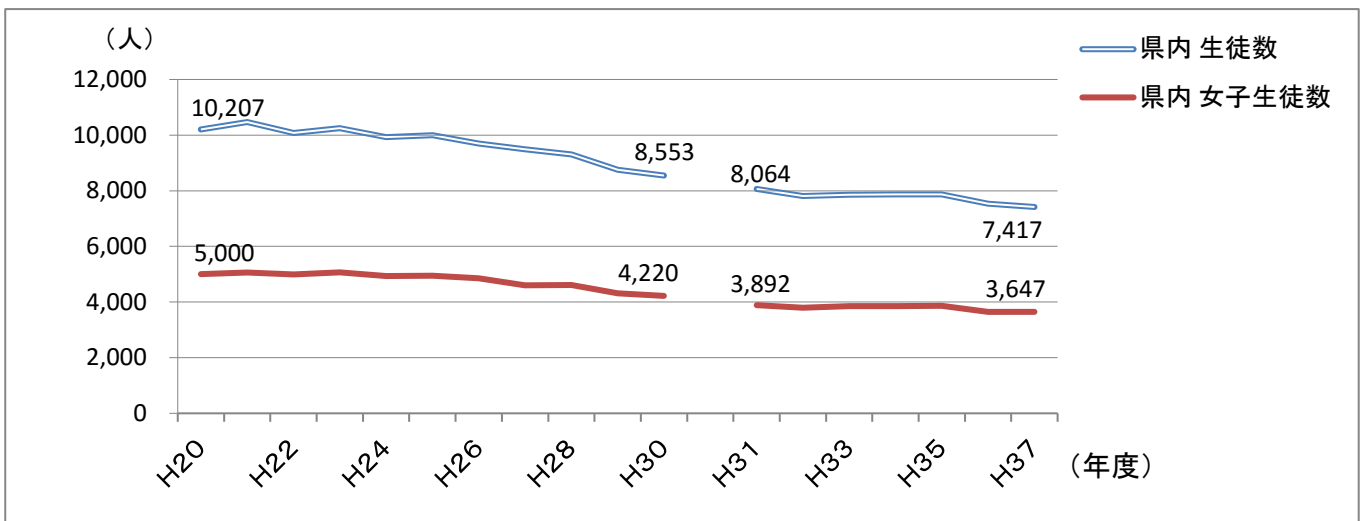
(人)

年 度	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
生 徒 数	10,207	10,470	10,078	10,248	9,926	10,000	9,700	9,495	9,312	8,758	8,553
女子生徒数	5,000	5,066	4,996	5,067	4,931	4,944	4,849	4,597	4,608	4,314	4,220

年 度	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
生 徒 数	8,064	7,809	7,857	7,869	7,867	7,532	7,417
女子生徒数	3,892	3,798	3,849	3,851	3,868	3,650	3,647

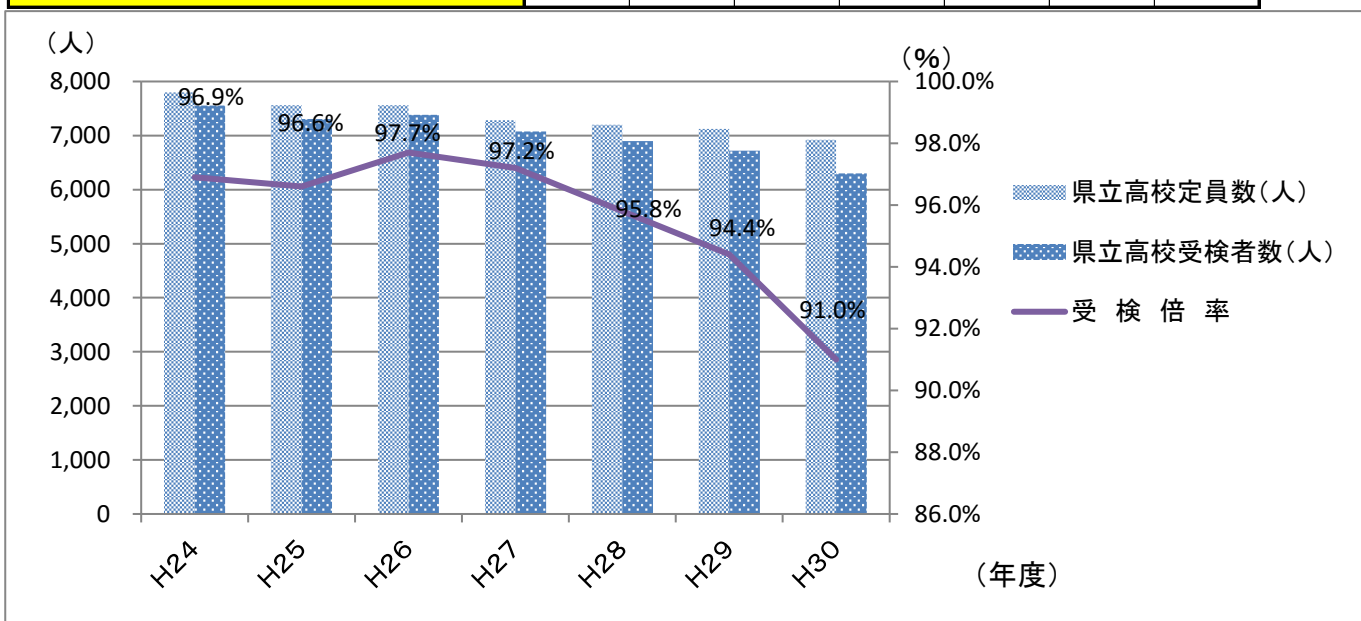
県調査統計課「学校基本調査の概要」より引用

※H30年度以降の生徒数及び女子生徒数はH29年5月1日時点での各学年の人数



【県立高等学校(全日制)定員数・受検者数の推移】

入学者選抜実施年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
県内中学校3年生生徒数(人)	10,248	9,926	10,000	9,700	9,495	9,312	8,758
県立高校定員数(人) 【参考:資料9】	7,800	7,560	7,560	7,280	7,200	7,120	6,920
県立高校受検者数(人) 【参考:資料9】	7,558	7,306	7,386	7,075	6,899	6,718	6,298
受 検 倍 率	96.9%	96.6%	97.7%	97.2%	95.8%	94.4%	91.0%



平成30年度 和歌山県立高等学校入学者選抜実施状況

○学校別・学科別状況(全日制)

(平成30年3月30日現在)

学 校 名	学 科 名 (コース等)	学級数	定員	特別選抜			スポーツ推薦			一般選抜			再学力			追募集			合計		
				出願	受検	合格	出願	受検	合格	出願	受検	合格	許可	受検	合格	出願	受検	合格	出願	受検	合格
橋 本	普通科	4	160							174	174	160	0						174	174	160
	普通科(県立中)*1	1	40																		
紀 北 工 業	機械科	2	80				4	4	4	60	60	60	0			1	1	1	65	65	65
	電気科	1	40				1	1	1	31	31	31	0			1	1	1	33	33	33
	システム化学科	1	40				3	3	3	30	30	30	0			3	3	3	36	36	36
紀 北 農 芸	生産流通科	1	40				0	0	0	24	24	24	0			2	2	2	26	26	26
	施設園芸科	1	40				0	0	0	32	32	32	0			1	1	1	33	33	33
	環境工学科	1	40				6	6	6	34	34	34	0						40	40	40
笠 田	普通科	3	120				3	3	3	121	121	117	0						124	124	120
	総合ビジネス科	1	40				7	7	6	33	33	34	0						40	40	40
	情報処理科	1	40				1	1	1	44	44	39	0						45	45	40
粉 河	普通科	5	200				7	7	7	217	217	193	0						224	224	200
	理数科	1	40							14	14	36	0			1	1	1	15	15	37
那 賀	普通科	7	280							262	262	262	0			10	10	10	272	272	272
	国際科	1	40							39	39	39	0			1	1	1	40	40	40
貴 志 川	普通科	4	160							87	86	86	0			36	36	36	123	122	122
	人間科学科	1	40							23	23	23	0			8	8	8	31	31	31
和 歌 山 北	普通科(北校舎)	7	280				21	21	21	255	254	259	0						276	275	280
	普通科(西校舎)	2	80				0	0	0	91	91	80	0						91	91	80
	スポーツ健康科学科	2	80							87	87	80	0						87	87	80
和 歌 山	総合学科	4	160				0	0	0	179	179	160	0						179	179	160
向 陽	普通科	6	240							279	279	240	0						279	279	240
	環境科学科*1	2	80																		
桐 蔭	普通科	3	120							148	148	120	0						148	148	120
	普通科(県立中)*1	2	80																		
	数理科学科	2	80							60	60	80	0						60	60	80
和 歌 山 東	普通科	6	240				4	4	4	234	233	233	0			2	2	2	240	239	239
星 林	普通科	6	240				0	0	0	254	252	240	2	2	2				254	254	242
	国際交流科	1	40				0	0	0	38	38	40	0						38	38	40
和 歌 山 工 業	機械科	2	80				5	5	5	66	66	66	0			2	2	2	73	73	73
	電気科	2	80				0	0	0	52	52	57	0			7	7	7	59	59	64
	化学技術科	1	40				0	0	0	51	51	40	0						51	51	40
	建築科	2	80				3	3	3	83	83	77	0						86	86	80
	土木科	1	40				1	1	1	43	43	39	0						44	44	40
	産業デザイン科	1	40				2	2	2	49	49	38	0						51	51	40
	創造技術科	1	40				6	6	6	38	37	34	1	1	1				44	44	41
和 歌 山 商 業	ビジネス創造科	7	280				6	6	6	276	276	274	0						282	282	280
海 南	普通科(海南校舎)	4	160							174	174	160	0						174	174	160
	教養理学科	1	40							29	29	37	0			2	2	2	31	31	39
	普通科(大成校舎)	2	80							36	36	38	0			8	8	8	44	44	46
(美里分校)	普通科*2	1	40							8	8	8	0			1	1	1	9	9	9
箕 島	普通科(普通)	2	80				4	4	4	83	83	76	0						87	87	80
	普通科(スポーツ)	2	80				12	12	12	58	57	57	1	1	1	0			70	70	70
	情報経営科	1	40				0	0	0	32	32	36	0			1	1	1	33	33	37
	機械科	1	40				1	1	1	33	33	35	0			0			34	34	36
有 田 中 央	総合学科(総合)	3	120							104	102	102	2	2	2	4	4	4	108	108	108
	総合学科(福祉)*3																				
(清水分校)	普通科*2	1	40							3	3	3	0			0			3	3	3
耐 久	普通科	5	200							152	151	151	1	1	1	7	7	7	159	159	159
日 高	普通科	5	200							202	202	200	0						202	202	200
	総合科学科*1	1	40																		
(中津分校)	普通科*2	1	40							20	20	20	0			0			20	20	20
紀 央 館	普通科	4	160				3	3	3	159	159	157	0						162	162	160
	工業技術科	1	40				0	0	0	39	39	40	0						39	39	40
南 部	普通科	3	120							115	115	115	0			1	1	1	116	116	116
	食と農園科	3	120							89	89	89	0			2	2	2	91	91	91
(龍神分校)	普通科*2	1	40	2	2	2				11	11	11	0			0			13	13	13
田 辺	普通科	6	240							242	241	240	1	1	1				242	242	241
	自然科学科*1	2	80																		
田 辺 工 業	機械科	2	80							82	82	80	0						82	82	80
	電気電子科	1	40							25	25	27	0			1	1	1	26	26	28
	情報システム科	1	40							37	37	37	0			1	1	1	38	38	38
神 島	普通科	3	120							138	138	120	0						138	138	120
	経営科学科	3	120							105	105	120	0						105	105	120
熊 野	看護科	1	40							44	44	40	0						44	44	40
	総合学科	4	160				19	19	19	138	138	140	0			1	1	1	158	158	160
串 本 古 座	普通科*2	3	120							74	74	74	0			1	1	1	75	75	75
新 宮	普通科	5	200							209	209	201	0						209	209	201
新 翔	総合学科	4	160							118	118	118	0			8	8	8	126	126	126
合 計		173	6,920	2	2	2	119	119	118	6,067	6,056	5,889	8	8	8	113	113	113	6,301	6,298	6,130

*1 次の学科については、それぞれの県立中学校からの進学者のみとし、県立高等学校入学者選抜による募集は行わない。

○橋本高等学校普通科のうち1クラス ○向陽高等学校環境科学科 ○桐蔭高等学校普通科のうち2クラス

○日高高等学校総合科学科 ○田辺高等学校自然科学科

*2 海南高等学校美里分校、有田中央高等学校清水分校及び南部高等学校龍神分校の入学者枠数には、全国募集枠数各4名程度を含む。

日高高等学校中津分校、串本古座高等学校の入学者枠数には、全国募集枠数各12名程度を含む。

*3 有田中央高等学校総合学科福祉系列の人数は、26名以内であり、総合学科合格者数108名のうち、福祉系列の合格者数は10名である。

(定時制)

学 校 名	学 科 名 (コース等)	学級数	定員	特別選抜			スポーツ推薦			一般選抜			再学力			追募集			合計		
				出願	受検	合格	出願	受検	合格	出願	受検	合格	許可	受検	合格	出願	受検	合格	出願	受検	合格
伊 都 中 央	普通科(昼)	2	70							32	32	32	0			2	2	2	34	34	34
	普通科(夜)	1	30							0	0	0	0			1	1	1	1	1	1
粉 河	普通科(夜)	1	40							5	4	4	0			1	1	1	6	5	5
	普通科(昼)	2	70							58	58	58	0			8	8	8	66	66	66
きのくに青雲	普通科(夜)	1	30							4	4	4	0			0			4	4	4
	情報会計科	1	30							4	2	2	1	1	1	0			4	3	3
和 歌 山 工 業	機械電気科	1	40							3	3	3	0			0			3	3	3
	建築科	1	40							13	13	13	0			3	3	3	16	16	16
海 南	普通科(夜)	1	40							4	4	4	0			0			4	4	4
耐 久	普通科(夜)	1	40							2	2	2	0			0			2	2	2
日 高	普通科(夜)	1	40							9	9	9	0			1	1	1	10	10	10
南 紀	普通科(昼)	1	35							18	18	18	0			0			18	18	18
	普通科(夜)	1	30							7	6	5	0			1	0	0	8	6	5
新 宮	普通科(夜)	1	40							12	11	11	0			1	1	1	13	12	12
合 計		16	575							171	166	165	1	1	1	18	17	17	189	184	183

○大学科別状況

(全日制)

大 学 科 名	学級数	定員	特別選抜			スポーツ推薦			一般選抜			再学力			追募集			合計		
			出願	受検	合格	出願	受検	合格	出願	受検	合格	許可	受検	合格	出願	受検	合格	出願	受検	合格
普通科	104	4,160	2	2	2	54	54	54	3,806	3,798	3,621	5	5	5	66	66	66	3,928	3,925	3,748
農業に関する学科	6	240				6	6	6	179	179	179	0			5	5	5	190	190	190
工業に関する学科	20	800				26	26	26	719	718	691	1	1	1	16	16	16	761	761	734
商業に関する学科	13	520				14	14	13	490	490	503	0			1	1	1	505	505	517
保健体育に関する学科	2	80							87	87	80	0						87	87	80
理数に関する学科	9	360							103	103	153	0			3	3	3	106	106	156
国際交流に関する学科	2	80				0	0	0	77	77	79	0			1	1	1	78	78	80
看護に関する学科	1	40							44	44	40	0						44	44	40
人文に関する学科	1	40							23	23	23	0			8	8	8	31	31	31
総合学科	15	600				19	19	19	539	537	520	2	2	2	13	13	13	571	571	554
合 計	173	6,920	2	2	2	119	119	118	6,067	6,056	5,889	8	8	8	113	113	113	6,301	6,298	6,130

(定時制)

普通科	13	465							151	148	147	0			15	14	14	166	162	161
工業に関する学科	2	80							16	16	16	0			3	3	3	19	19	19
商業に関する学科	1	30							4	2	2	1	1	1	0			4	3	3
合 計		16	575						171	166	165	1	1	1	18	17	17	189	184	183

(参考)市立高等学校入学者選抜実施状況

(全日制)

学 校 名	学 科 名 (コース等)	学級数	定員	特別選抜			スポーツ推薦			一般選抜			再学力			追募集			合計		
				出願	受検	合格	出願	受検	合格	出願	受検	合格	許可	受検	合格	出願	受検	合格	出願	受検	合格
和 歌 山 市 立 和 歌 山	総合ビジネス科	4	160				10	10	10	166	166	150							176	176	160
	デザイン表現科	1	40							42	42	40							42	42	40
	普通科	2	60							72	72	60							72	72	60
海 南 市 立 海 南 下 津	家政科	2	80							4	4	4				3	3	3	7	7	7
	食物科	1	40							25	25	25				5	5	5	30	30	30
合 計		10	380				10	10	10	309	309	279	0	0	0	8	8	8	327	327	297

(定時制)

和 歌 山 市 立 和 歌 山	ビジネス実践科	1	40							6	6	6				0			6	6	6
	ビジネス情報科	1	40							4	4	4				1	1	1	5	5	5
合 計		2	80							10	10	10	0	0	0	1	1	1	11	11	11

出典：和歌山県教育委員会ホームページ

他府県における「新しいタイプの高等学校」の例

(学校 HP や新聞記事などから作成)

1 東京都「エンカレッジスクール」

可能性を持ちながらも力を発揮できない状態の生徒を積極的に受け入れ、社会生活を送る上で必要な基礎的・基本的学力を身につけることを目的とする全日制都立高校。

「エンカレッジ」とは、勇気付けるという意味。

【特 色】

- ・入学選抜に学力検査を実施しない。
- ・定期考査を実施しない（授業態度・提出物・小テスト等、多様で多面的な評価）。
- ・「30分授業」の実施（1年次）。
- ・国語、数学、英語を中心に習熟度別学習と少人数授業で基礎基本を定着させる。
- ・二人担任制によるきめ細かな指導を実施する。
- ・特色ある「体験的学習」を実施する。等

これらの施策により、生徒の力を引き出し成就感・達成感を実感させる。

足立東高等学校・秋留台高等学校（平成15年度～）

練馬工業高等学校（平成18年度～）・蒲田高等学校（平成19年度～）

東村山高等学校（平成22年度～）※定期考査を実施

2 神奈川県「クリエイティブスクール」

不登校や学力不振など、小中学校時代に持っている力を十分に発揮できなかった生徒に対してきめ細かな指導を行う。卒業後には、自らの能力を活かしながら社会で生き抜く力を身につけた人材の育成を目的とする。全日制県立高校（普通科・学年制）。

【特 色】

- ・入学選抜は面接と小論文（作文）のみ。（学力検査を実施せず、内申書の提出も不要）
- ・1クラス30人以下の少人数制、担任と副担任の複数担任制。
- ・短時間の朝学習などで、基礎学力の向上をはかる。
- ・地域や企業と連携した体験重視のキャリア教育。等

大楠高等学校・釜利谷高等学校・田奈高等学校（平成21年度～）

大井高等学校・大和東高等学校（平成29年度～）

3 大阪府「エンパワメントスクール」

義務教育段階の学習のつまずきで高校を中退、不登校となる生徒が多い現状を踏まえ、学び直しや参加体験学習等により、「基礎学力」、「考える力」、「生き抜く力」を身につけさせる。

「エンパワメント」とは「力を引き出す」の意味。

【特 色】

- ・1年次生では国数英を毎日30分の少人数・習熟度別授業で行うほかは、「教科書にとらわれない基礎科目」とし、必修科目等は2年次生以降を中心に学習する。
- ・タブレットや電子黒板、ドリル教材などを活用したわかりやすい授業を行う。
- ・社会人基礎力を身につけさせるために、「エンパワメントタイム」では、3学年を通じて「正解が1つでない問題」について考える授業を実施する。

西成高等学校・長吉高等学校・箕面東高等学校（平成27年度～）

成城高等学校・岬高等学校（平成28年度～）・布施北高等学校（平成29年度～）

淀川清流高等学校・和泉総合高等学校（平成30年度～）